

第三回館山市議定会定例会會議錄

(第一号)





# 昭和四十四年九月招集

## 第三回館山市議会定例会会議録（第一号）目次

|           |    |
|-----------|----|
| 日 時       | 三  |
| 場 所       | 三  |
| 出 席 議 員   | 三  |
| 欠 席 議 員   | 四  |
| 出 席 説 明 員 | 四  |
| 出席事務局職員   | 六  |
| 議 事 日 程   | 六  |
| 開 会       | 八  |
| 出席説明員の報告  | 八  |
| 諸般の報告     | 八  |
| 追悼のことば    | 九  |
| 黙 禱       | 一一 |
| 議案の配付     | 一一 |



|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 會議錄署名員の指名                      | 一一 |
| 会期の決定                          | 一二 |
| 提案理由の説明                        | 一三 |
| 陳情書の上程                         | 一七 |
| 採決                             | 一七 |
| 行政一般質問                         | 一八 |
| 議案の上程（報告第三号及び議案第五十二号乃至議案第六十三号） | 二四 |
| 議案の内容説明                        | 二四 |
| 延会                             | 六六 |
| 本日の會議に付した事件                    | 六六 |



第三回館山市議定会定例会會議錄（第一号）

昭和四十四年九月招集

一、昭和四十四年九月二十六日（金曜日）午前十時

一、館山市議会本會議場

一、出席議員 二十七名

二番 石 井 輝 久

四番 伊 賀 多 朗

六番 磯 辺 博

八番 黒 川 正

一〇番 西 村 真 次

一二番 小 柴 孝

一五番 石 井 正

一七番 江 田 徳 太 郎

一九番 島 野 茂 樹 郎

二二番 小 沢 恵 太 郎

三番 嶋 田 石 蔵

五番 藤 田 益 治

七番 白 熊 盛 太 郎

九番 三 幣 勇

一一番 菊 井 敏 博

一四番 速 山 日 本 子

一六番 五 十 嵐 昇

一八番 安 西 益 男

二〇番 中 村 省 吾

二三番 飯 田 義 男



二四番 田中祿郎

二六番 秋山六三郎

二八番 望月昭正

三〇番 山口康

二五番 田村源治郎

二七番 安沢徳順

二九番 鈴木市蔵

一、欠席議員 一名

一番 吉田勇治郎

一、出席説明員

市長

助役

収入役

秘書課長

人事課長

企画課長

庶務課長

財政課長

市民課長

調査課長

収納課長

本間

島山

高木

太田

小沢

伊藤

小倉

長谷川

山口

石渡

梯溝

譲

伝

三

雄

治

郎

男

治

実

東

功



|             |        |     |
|-------------|--------|-----|
| 農産課長        | 石井     | 謀   |
| 水産課長        | 谷貝     | 茂生  |
| 商工観光課長      | 山田     | 俊康  |
| 土木課長        | 飯田     | 治男  |
| 建築課長        | 池田     | 春雄  |
| 衛生施設課長      | 大嶋     | 重義  |
| 福祉事務所長      | 斉藤     | 武男  |
| 市民センター館長    | 羽山     | 房雄  |
| 保健衛生課長補佐    | 森      | 信次  |
| 診療所事務長      | 吉岡     | 政雄  |
| 消防長         | 星野     | 清之助 |
| 消防本部次長      | 岩田     | 実   |
| 教育長         | 高木     | 正   |
| 教育委員会議務課長   | 干場伊右衛門 |     |
| 学校教育委員会議務課長 | 速藤     | 一郎  |
| 保健体育課長      | 川上賢爾   |     |



教育委員  
社会教育課長

小宮 義夫

選挙管理委員  
書記長

鈴木 力

監査委員  
局長

石原 斉

農業委員  
事務局長

昌山市治郎

一、出席事務局職員

事務局 長

高梨 清一

事務局 長補佐

高尾 豊

書記

兵藤 恭一

書記

錦織 睦子

書記

渡辺 弘

書記

庄司 徹

書記

木高 松雄

一、議事日程(第一号)

昭和四十四年九月二十六日午前十時開議

日程 第一 会議録署名員の指名

日程 第二 会期の決定



日程第三 陳情書

日程第四 行政一般通告質問

報告第三号 安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出について

議案第五十二号 館山市身体障害者家庭奉仕員派遣事業に関する条例の制定について

議案第五十三号 館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十四号 館山市厚生年金保険被保険者休養施設設置条例の一部を改正する条例の制定について

いて

議案第五十五号 館山市防災会議条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十六号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十七号 館山市議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償に関する条例を廃止する条例の制定について

日程第五

例の制定について

議案第五十八号 市道路線の認定について

議案第五十九号 市道路線の認定及び廃止について

議案第六十号 昭和四十四年度館山市一般会計補正予算（第三号）

議案第六十一号 昭和四十四年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第一号）

議案第六十二号 昭和四十四年度館山市休養施設特別会計補正予算（第一号）

議案第六十三号 昭和四十四年度館山市館山ユースホテル特別会計補正予算（第一号）



開

會

午前十時十五分

開議

○議長

(西村真次君)

本日の出席議員数二十五名、これより第三回市議会定例会を開会いたします。

## 出席説明員の報告

○議長

(西村真次君)

本定例会の議案審議の必要上、地方自治法第二百一十一条の規定による出席要求に対し、本間市長、畠山助役、高木収入役、太田課長、長谷川課長、伊藤課長、小倉課長、小沢課長、山田課長、池田課長、飯田課長、石井課長、山口課長、石渡課長、横溝課長、斉藤所長、谷貝課長、大嶋<sup>ニホ</sup>課長、羽山館長、森主事、星野消防長、岩田次長、鈴木書記長、石原局長、畠山局長、吉岡事務長、高木教育長、干場課長、遠藤課長、川上課長、小宮課長以上の者が出席する旨の報告がありました。

## 諸般の報告

○議長

(西村真次君)

この際御報告申し上げます。

本市議會議員山田教字君には、八月十日以来難病とたたかつておりましたが、遂に八月二十四日午後五時五十五分



急逝されました。ここにつつしんで哀悼の誠をささげ御報告申し上げます。

### 追悼のことば

○議長（西村真次君） このことについて、秋山六三郎君より発言を求められております。暫時これを許します。

秋山六三郎君

（二六番議員秋山六三郎君登壇）

○二六番（秋山六三郎君） ただ今議長から御報告ありましたとおり、故山田教字議員には、去る八月二十四日千葉大学付属病院におかれまして急逝されました。

ここに同僚議員の御同意をいただき、議員一同を代表いたしまして、つつしんで哀悼のことばを申し上げたいと存じます。

顧みますれば、山田教字君は昭和四年医学の最高学府を終え、引き続き実地研究に専念されること十有余年、医学博士の称号を授けられたのであります。生来、責任観念が強くしかも温厚な人柄は、医業を通じて地域社会の信頼を勝ち得、さらに旺盛なる研究心は進んで教育面に、または社会福祉にまでその関心を高め、それぞれの面において広く貢献するところ多く、昭和二十一年本市学校医に選任され、越えて昭和二十七年十月館山市教育委員会委員に立候補、みごとに当選の榮を得られたのであります。昭和二十九年には推されて教育委員長の重責につきましたが、ときあたかも近隣太カ村が本市に合併のさなかであり、教育行政再編成の過渡期にあたり市立四中の設立を手はじめといたしまして、幾多の重要施策を迅速、適切に措置された手腕と識見とは、私たちの常々敬服してやまないところであります。



さらに昭和三十八年五月衆望をになわれ本市議會議員当選の榮譽を勝ち得られ、自来住民の信頼にこたえて議會人としての職責に徹し、市勢振興に寄与され、この間文教民生委員長、議會選出監査委員、館山市及び三芳村伝染病隔離病舎組合議會議員、あるいは館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議會議員、三芳水道企業団議會議員等、多面にわたる議會活動に挺身され、その功績は遼大であり、私たち同僚の等しく認めるところであります。ひるがえつて今夏千葉政経懇話会の海外視察が行なわれるにあたり、持ちまえの研究意欲はおさえがたく、自ら進んで視察団に加わり速くニューヨーク、ワシントン等大都市の行政事務を視察されて帰られまして、必らずや今後の本市行政に寄与するところが、旬日を出ずして全快されるものと信じておりまして、にわかに病床につくことに相なりました。この報に接しましたが、旬日を出ずして全快されるものと信じておりまして、人の世の定めとは申しながら、その逝去のあまりにも早かつたことにただただ驚愕痛惜のことばもございません。私たち残された者といしましては、かけがえのない大事な人材を失いただ亦然としておるのみであります。

いよいよ議會活動も軌道に乗り、特に近時住民の地方自治体に対する行政需要は高度化、多様化の一途をたどっており、その効率的合理的な充足が市町村行政の大きな課題となっております。これらの課題を克服し、地域住民の期待にこたえていよいよ重大なとき、惜みてもあまりあるものといわなければなりません。

常日頃、君の登庁されたあの元氣な姿も今はなく、君の議席である一三番は空席となつてしまつたのであります。

今、君の議席に花束をささげ、館山市議會を代表いたしまして、ここに故山田教字議員の功績をたたえ、その風格をしのび心から御冥福をお祈りいたしまして追悼のことばといたします。

○ 議長 (西村真次君) 以上で秋山六三郎君による追悼のことばを終わります。



黙

禱

○ 議長（西村真次君） この際、故山田教字君の霊につつしんで黙禱をささげ、山田君の冥福をお祈りしたいと思ひます。

御起立願います。黙禱始め。

（起立黙禱）

○ 議長（西村真次君） 黙禱終ります。着席願います。

### 議案の配付

○ 議長（西村真次君） 議案を配付いたします。議案の配付漏れはありませんか。—— 配付漏れなしと認めます。

### 会議録署名員の指名

○ 議長（西村真次君） 日程第一、会議録署名員の指名を行います。本定例会の会議録署名員に五番議員藤田益治君、二七番議員安沢徳順君以上両君を指名いたします。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）



○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて決定いたしました。

### 会 期 の 決 定

○ 議長 (西村真次君) 日程第二、会期の決定を行ないます。

本定例会の会期につき、議会運営協議会の意見は本九月二十六日より九月三十日までの五日間ということとあります。おはかりいたします。会期を五日間と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて会期は九月二十六日から九月三十日までの五日間と決定いたしました。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

これより定例会の案件につき市長の説明を求めます。

暫時休憩いたします。

午前十時二十五分

休 憩

午前十時二十六分

再 開

○ 議長 (西村真次君) 休憩前に引き続き会議を開きます。本間市長。



## 提案理由の説明

○ 市長 (本間 譲君) これよりごあいさつ並びに提案の御説明を申しあげたいと存じます。

会議に先立ちまして、このたび西村議長を団長とするペリンハムの視察団御一行には、元気でその重責を果され、一昨日、無事お帰りになされたことは、まことに御同慶にたえません。いろいろと姉妹市並びに米国各地において、視察、御研究なされ、貴重な御体験を生かされ、今後の市勢発展のため御活躍くださることを、御期待いたす次第でございます。

また、ただいま議會議員諸兄の発議によりまして、故山田教字議員に対する追悼のことがありましたが、まことに山田議員は、温厚篤実な方で、市議會議員として市勢振興のため日夜、積極的な御活躍をなされておられたにもかかわらず、卒然として病に倒れ他界されましたことは、館山市の発展途上に惜しみあることでありまして、ここに、つつしんで哀悼の意を表します。

さて本日ここに九月定例市議會を開催するにあたり、一言提案理由を御説明申し上げます。

本會議に上程いたします各案件は、報告に関するもの一件、条例の制定、改廃に関するもの六件、一般議案に関するもの二件、予算の補正に關するもの四件、がおもなものであります。

まず報告関係といたしまして、安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出についてであります。これは本市が、同改良区に対し、損失補償をしている関係から、法第二百四十三条の三第二項の規定するところにより、その、経営状



況を説明する書類を議会に提出し、適正なる事業の執行と効率的な運営を期そうとするものであります。

次に条例の制定関係としまして、身体障害者家庭奉仕員派遣事業に関する条例の制定であります。現在市内に二百十八名の重度の身体障害者がありますが、これらのうち、低所得者の家庭については、家事、介護、相談等身の回りの世話をし、恵まれないこれらの身体障害者に、老人家庭奉仕員同様家庭奉仕員を派遣いたし、福祉の向上をはかろうとするもので、本年十月一日から施行の運びとなるわけでございます。

次に条例の一部改正に関するものは、まず市民センター関係としまして、新設に伴なうホール照明器具、設備にかかるとる使用料及びセンター広場使用料等、市民センター条例の一部改正、また鳩山荘関係としましては、厚生大臣官房国立公園部長より、物価等の高騰により、国民宿舍の健全な運営が現利用料では困難となり、利用者の処遇低下をまねくおそれが生ずることと、国民宿舍利用料の改定を十月一日から施行するように通知があり、本市も鳩山荘にかかわる利用料を改定しようとする厚生年金保険被保険者休養施設設置条例の一部改正、また県消防防災課との協議により、本市防災会議委員の構成員中、さらに住民と一体となった弾力的な防災会議運営を期するため、委員をガス、水道、医療機関、運輸、旅客、運送などの公共的機関から選任するための委員の定数を改めて、新たに加えようとするものであります。

次に、市職員給与条例の一部改正であります。これはし尿、ごみ処理従事職員に対する清掃従事特殊勤務手当の額について、業務の特殊性また給与上の均衡から改正しようとするもので、合わせて従事職員の勤務意欲また能率の向上をはかろうとするものであります。

次に一般議案としまして、市道路線の認定及び廃止が二件ほどありますが、これは旧国道一二八号線を市道として移管しようとするもの、及び市道一八九号線改良工事による路線を変更しようとするものがございます。



次に、一般会計補正予算ほか、三特別会計補正予算であります。まず一般会計補正予算三号について、そのおもなものを御説明申し上げますと、まず総務費関係では、防災対策関係で電信電話途絶時における医療機関等、公共機関との無線による情報網の確保をはかるための無線機購入五十五万二千円、前回御承認いただきました災害等罹災者見舞金二十五万六千円、市史編さん関係費としまして中央大学史学研究会への委託料四十万円、市制三十周年記念行事関係報償費十五万円、館山中央ライオンズクラブより寄付のありました交通安全施設工事費ほか交通安全対策関係費五十四万円、税務に関する徴税費では、明年が固定資産税事務が基準年度にあたるため、これに対処するために臨時職員、機械、器具購入費等百三万円であります。

次に、民生費関係では、塩見地区並びに青柳地区に建設が予定されています青年館建設工事費三百九十六万円、ほか、本市が家庭児童対策モデル地区としての関係経費、前述の身体障害者家庭奉仕員関係費等三十六万余円であります。

次に衛生費関係ではじんあい処理費として清掃作業員賃金三百四十五万余円、ごみ捨て場整地等工事費八十六万余円、清掃車購入費七十万円であり、し尿処理費においては、し尿処理施設総合機能調査委託として二十二万円、水道費関係としまして、佐野から坂田地域にかけての仮称西部簡易水道調査費として八十四万九千円を計上しました。

次に、農林水産業費関係としまして、安布里地区に建設が予定されています農村協同館建設関係費二百四十八万余、畜産関係費として、道路取り付け位置の計画の変更等、また、工事実施を県農業開発公社に委託するため、これが予算の振りかえとして豊房育成牧場及び九重団地草地造成事業の予算減額二千四十八万余円。

次に、水産振興費として館山湾沖ののり養殖試験研究委託費として四十万円、館山船形漁業協同組合船形支所荷揚げ所に関係する沿岸漁業構造対策事業近代化補助金二十四万円、また漁港建設費については、国の事業計画の変更による船形、富崎漁港修築工事負担金の減額百九十七万三千円がおもなものであります。



次に土木費関係としましては、県の認可により那古下水路改良工事関係費五百二十万円、同じく公園費として、本年度から明年にかけて北条小学校跡地の公園調査に要する委託料二十万円、うめ、つばき植栽等城山公園整備工事費二百二十三万九千円、住宅費としまして、市営住宅建物等修繕料六十万円、また住宅建設費の財源内訳を一般財源から国、県支出金へと振りかえる三百四十七万九千円がおもなものであります。

消防費としましては、非常勤消防団員退職報償金五十七万円、教育費としましては、教育総務費関係としまして、今回県より視聴覚ライブラリー整備事業として、県南において館山市が指定された関係から北条小学校にある資料センター整備費として、資料センター教材購入費百一万九千円、小学校費としましては、九重小学校プール循環ろ過装置購入及びプール付帯工事費九十六万四千円、中学校費として、二中学校内放送配線工事四十七万円、二中武道館畳購入費十二万円、西岬中プール循環ろ過装置購入ほかプール付帯工事費百十四万六千円、保健体育費として、昭和四十八年千葉県国体開催準備関係費四十五万円のほか、館山北ライオンズクラブより寄付のあつた船形小テレビホン配線工事三万、那古小図書購入三万、一中オーバーヘッド購入十万円等がおもなもので、歳出総額八百十六万九千円となりますが、これが財源といたしまして、国、県支出金三百六十九万一千円の減額、地方債八百五十万円の減額を調整の上、六十万五千円の特定財源、他を一般財源をもつて充当しようとするものであります。なお、この予算に合わせて国の地方債融資基準改正による適正規模を有しなくなった漁港整備事業負担金債の減額三百万円、事業計画の変更による小規模草地改良事業債の変更も合わせてお願いしようというものであります。

次に、特別会計においては、国保会計四十二万五千円、休養施設百二十五万三千円、ユースホテル会計四十五万の追加をそれぞれお願いいたそうとするものであります。

なお、本定例市議会において、人事関係としまして、この九月三十日をもちまして、任期満了となります公平委員会



委員の選任、教育委員会委員の任命につきましては、追加議案を予定しておりますので、上程の際はぜひとも市議会の御賛同をたまわりますよう、切にお願い申し上げます。

以上、簡単な説明に尽きるわけですが、詳細につきましては、関係課長等をして説明させますので、よろしく御審議をたまわりまして、御決定をいただきたいと思います。以上、提案の理由を御説明を申し上げます。どうもありがとうございました。（拍手）

○ 議長 （西村真次君） 市長の説明を終わります。

### 陳情書の上程

○ 議長 （西村真次君） 日程第三、豊房小学校校舎改築に関する陳情書を議題といたします。

（書記朗読）

豊房小学校校舎改築に関する陳情書

○ 議長 （西村真次君） 本陳情書につきまして何か御発言がございますか。――御発言なしと認めます。

採 決

○ 議長 （西村真次君） おはかりいたします。本陳情書を採択の上、関係当局に送付いたしますことに御異議ござい



ませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本陳情書は採択と決し關係当局に送付いたします。

### 行政一般質問

○議長 (西村真次君) 日程第四、通告による行政一般質問を行ないます。

かねて、申し合わせ協定の二十四日正午までに通告のありました議員は一人であります。一八番議員安西益男君。

(一八番議員安西益男君登壇)

○一八番 (安西益男君) 私は、市営住宅の修復対策についてお尋ねしたい。

聞くところによりますと、沼の市営住宅におきましては、すでにもう三年ほど前から数回にわたつて雨漏り、あるいは修繕箇所、そういつたことにつきましては、市当局に陳情がなされておる。いまなお見通しのつかぬままに苦慮しておるということが実情でございます。加えて、また笠名市営住宅におきましても同様昨年度からやはり陳情し、なおまたいまもつて何らの具体的な対策も示されておらない。かように聞いておるわけでございます。

去る六月だと思いましたが、建設委員会の席上におきまして、この問題を關係担当課に申し上げたわけですが、その上に、やはり建設委員長は現地を早速調査しようということにしまして、その後雨の相当ひどい日でありましたが、建設委員長同行願ひまして、職員二名と現地を調査に参つたわけでございます。まことに、これは思つたよりひどく、六、七軒同じ箇所が相当ひどい雨漏りでありました。これにつきましても、昨年度当局にこの実情を



訴え、そうして係の者が見えた。そのうち何とかしますということであつた。その後また業者も見えた。その業者の言われるには、一軒なおすと全部なおさなければならぬ。これは一つやつてもらわなければ困るのだ。その後何のおとさもない。昨年から今日にかけて職員も業者も見えておりながらも、何ら具体策が示されていない。

また、担当課長に聞きます場合におきましても、一向に知らなかつたというような担当課長のお話してございました。このようなことであつては断じてならないのではないか。これは、一部の担当課の職員のみが知つて、担当課の中心の課長が昨年来の陳情に対しても知らないということにつきましては、私は非常に問題ではないかと思ひます。担当課の内部の統制がまことに不統一である。あるいはまた、責任觀念という点からしたならば、これも問題ではなからうか。こういうことを非常に憂うるものでございます。

その後、また建設委員長ももう一べん見にいきたい。こういうような段階になつておりますが、当日視察して参つた現状等は、これは沼地区の住宅等におきましては、本当にひどい。それもこれができましてから八年も十年もという期間たつておるとするならば、また問題もかわつてくると思ひます。しかしながら、もうすでに三年前からということになると建つて間もなくでありまして、笠名住宅におきましても、同じような個所がまだ数年しかたつておらない。そういう現状につきましては、今後に大きな問題が残つていく。このようにも考えられるのでございます。

また、担当課のお話しによりますと、これは建設省の標準規則によるものであるというようなお話しもございました。したならば、他市においては、こうした建設上の建設省の標準規則によるところのこうした住宅の状況はどうか。この点にも非常に私は大きな問題、あるいは他にそういった個所がないとするならば、これは当市だけの問題ということになりますと、もつと問題に対する究明といひますか、調査といひますか、研究といひますか、そういう面でもつと真剣な態度を示していかなければならない。かようにも思ふものでございます。



この建設委員会あるいはまたその後の会議状況等によりまして、すでに担当課長も現地を調査されておる。このように思うわけでございますが、また、すでにもうこの時点におきましては、補正も組まれていなければ断じてならない。もう当然組まれておる。そのようにも確信しておるものでございますが、しかしながら、私は問題はここまでなければ補正を組まない。そういう姿勢にやはり大きな憂いを感じる。こう思うものでございます。従つて、やはり今後の残された問題としてすみやかにそうした住民の訴えに対する姿勢、そういう面にやはり市民の福祉向上をはかるという常々の市長さんのお考えを実際にそうした任に当たる人たちの姿勢を、私はもう一べんここで振り返つていただきたい。かようにも思うものでございます。

この問題につきましては、実は二十七日というような予定ということで、あすは本日に大挙して現地の人たちが傍聴にきて、この問題を聞きたいというようなお話もあつたわけでございますが、きょうということになりました、私もいろいろな調査不十分という面もございしますが、やはりそうした問題に対するすみやかな当局の姿勢、態度、ましてや中心にある担当課の課長さんまだもつて知らないということであつては、私は非常に残念に思うのでございますが、そういう点につきまして、住宅に対する対策という問題を、具体的な御説明ができて、お願いできるとするならば、ぜひその問題点をお聞かせ願いたい。このように思うものでございます。以上でございます。

(市長本間謙君登壇)

○市長 (本間謙君) 安西議員さんの御質問でございますが、雨漏りがしてはまことにこれは申しわけないと考えます。また、私が仮りに入っている家が濡るとすれば大さわぎのわけです。雨が濡るとふとんはぬれますし、いろいろたいへんでございますよ。今、課長にも聞きましたけれども、処置をしたそうですけれども、雨漏り箇所がなかなか発見できないということもいつております。鉄筋コンクリート等でやつても雨漏り箇所は一般の人がやつてもあるそう



ですが、あそこは鉄筋ではございません。雨漏り箇所があるということは、本当に申しわけないわけですが、今回六十万提案してございますから、それが足らなければまた足して雨の漏らないように責任を持つてやりたいと思います。ですから、どうぞ御了承をいただきますと思います。

それから、この場でそういうことを言つても申しわけないと思いますが、あそこの住宅で非常に住宅の家賃の未納がずいぶん多いんです。これはどうもなかなかむずかしい話で現在九十四万五千五百八十三円あるんです。三十四件ですね。なかなか話してもいろいろの事情もありでしょうし、なるべく都合をつけていただきたいと考えていまして、私のほうはやることはぜひそういう雨漏りやなんかしないようにいたしますし、また滞納の多い人は一人でもつて十六万なんぼというのがあるんですが、いろいろ事情もございましょうけれども、三年とか何年とか言いますが、一つ安西さん、その点もまた御心配願いたいと思います。どうぞ。

○ 一八番 (安西益男君) 市長さんから早速なおすというようなお話してございましたし、また確かにそういつた方たちもおるといふことも聞いております。また善良な人たちも多数おるといふことも当然でございまして、やはりそういつた人たち、あるいはやむを得ず滞納という人たちもおろうかと思ひます。しかしながら、そこは今市長さんの言われた何とかしてなおしてあげたいという、そのお気持ちで当たつていただきたい。

それと、これは念を押すようでございますが、あの種の住宅、建設省からの標準規則によるものであるということとでございますが、他の市におきましては、あいつた箇所があるのかないのか。あるいは館山市のみであるのかということとを担当課の課長さんに一つお伺いしたいという点が一点、それとなおまた、すでに沼では前から漏つておつた。それが同じ箇所である。あるいはまた、中にはもう押入れの中にどんだん漏つておる。柱のまん中がどんだん漏つておるといふ箇所が二、三個所見られるわけでございますして、そういう箇所をやはり館山市のみということになりますと、業者



に問題があるのかなというふうなことも考えられるわけですが、その点他市等はどんな状態でありますか。その点を一べんお伺いしたいと思います。

○ 建築課長 (池田春雄君) 建設省の標準のお話ですが、これはプレハブ住宅と申します。コンクリートのパネル、

これをもつて組み立ててあるものでございまして先程から雨漏り、雨漏りというお話ですがこれについての雨漏りではないわけです。壁体から水が漏るというか、水の回り、これが二階のほうから天井に伝わり落ちてくるわけです。その場所が大体において南側の出入口の上に多いわけです。今、お話しした天井に伝わり落ちてくるというところは一カ所聞いております。あとはみな階下の台所の出入口のところに天井から漏つてきております。

これはその都度小修理をやっておりますが、なかなか水が漏るというのは発見しにくい。またやつても、施行の、これをするのにコーキングというものをするわけですが、そのつける場所にほこり、また砂のようなものが入つておる。それからその部分がぬれておつた場合になかなかコーキングがつきにくい。しかもできたときには、コーキングをやつたときにはいいんですが、それが一年、二年たちますと、詰めている分量の問題で固まる。そうすると、そこに間隙ができるといふ場所ができる。それが風の強いとき、雨の多いとき、こういうふうにな水が回わる。先ほどの屋根から漏つてくるのでなく、壁から水が回つて出入口の上に、それから一カ所これは押入れの上に落ちてゐる。こういうような状態。

それから、他市のほうでもあるかどうかという問題ですが、これは県のほうにも聞きましたんですが、県のほうでも一度あつたというようなことを聞いております。これは二階のほうの敷居、窓ですか、その部分を鉄板でつつんだらよくなつた。こういうことを聞いております。

今度補正予算をお願いしまして、今まで住宅が百九十三あります。そこにわずか十五万か足らずの修繕費ではとても



幾らもやれないわけです。それをほとんど補足的にやらざるを得なかつた。従つて今度の補正にそういうものを、こういうようなことで六十万計上しております。

先ほど今後というようなお話しがちよつとありましたけれども、今のプレハブの壁からの水のほうよりも屋根の日本がわら、木造の住宅がたくさんあるわけですが、そちらのほうの雨漏りが、これは十年以上たつているものもあります。雨漏りを盛んに言われております。それでですから、そちらのほうは畳のまん中に落ちているものがあります。申し出てきております。そのほうが大々的にやらなければならぬと思ひまして、本年度当初に取りました部分を大部分が屋根のふきかえのほうに使つております。それでですから壁から回わるほうのプレハブの問題のほうがここに御質問になられたわけですが、以上のようなことで、水回りのほうよりも屋根の雨漏りのほうを先決としまして、先に雨漏りのほうをやつたわけでございます。以上でございます。

○ 一八番 (安西益男君) 御説明わかりました。他の市はあまり見られないということが、これが事実だと思ひます。しますと、館山市のみがそういう個所が多いと、沼もあるいは笠名もわずか三十戸ぐらいのところに六、七軒、それからさらに次々に漏るという可能性がある。そういう点を十分、今後の企画は漁民アパートもできるといふ段階にございますので、その都度善処するという方針をもつて、そういう個所あるいはまたそういうところがないように御検討願ひたいと思うわけですが、これは雨漏りとやつても天井から落ちる雨漏りとは違ふというお話しがございましたけれども、その点私もちよつと御説明がわかりませんけれども、事実バケツを置いて並べておるんですから、これは雨漏りということになると思ひますが、その点は実際入つてゐる方たちが心配してゐるわけでございますので、今、市長さんの御丁寧な御説明もございましたようなわけでございますので、すみやかに対処願ひたい。この点お願いしまして、以上をもつて終ります。



○議長（西村真次君） 以上で通告質問を終わります。  
暫時休憩いたします。

|          |     |     |
|----------|-----|-----|
| 午前十一時    | 十分  | 休 憩 |
| 午後 一時十一分 | 再 開 |     |

○議長（西村真次君） 午後の出席議員数二十三名、休憩前に引き続き会議を開きます。

### 議案の上程

○議長（西村真次君） 日程第五、報告第三号及び議案第五十二号乃至第六十三号を一括上程し、これより各議案の内容説明を求めます。

### 議案の内容説明

○議長（西村真次君） 報告第三号。

（書記朗読）

報告第三号 安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出について



○ 農産課長 (石井 謀君)

報告第三号、安房中央土地改良区の経営状況につきまして、地方自治法第二百四十三条の第三二項の規定によりまして、昭和四十三年度の事業報告、決算報告並びに四十四年度の事業計画及び予算の概要を御報告申し上げます。

最初に説明書の一一ページから御報告申し上げたいと思います。地区の状況と組合員の状況でございますが、この関係の総地積は一、一四四万五、六一九平方メートル、これは受益面積でございます。そのうちで館山市が約八、二一一ヘクタールでございます。組合員の総数でございますが、二千三百九十七人、館山市が千六百七十九人でございます。

事業の概要でございますが、三十三年度に安房中央土地改良区が発足いたしましたして、三十九年度までにダムの測量とあるいは設計、それから仮排水路、その他道路のつけかえ工事、こういうようなものを実施いたしましたして、三十九年度からいよいよ築堤工事に入つたわけでございますが、四十二年までに大体ダムの築堤工事がほとんど完了したわけでございます。

四十三年度のおもな事業といたしまして、波返しブロックを三、三一六ヘーベ、これは築堤の侵食を防止するために堤防の内塗りにブロックを張りつける工事でございます。それから、ガードフェンス堤頂舗装工事というのは、これは堤防の上に防護さくを講じまして、ガードレール式のを設置したということでございますが、この総事業費が二十六万円かかつております。

その次に余水ばけとしまして、側水路を七二・五メートル、放水トンネルを一〇五・四メートル行ないまして、この事業費が一億千六百九十二万一千円かかつております。あとは県道のつけかえでございますが、これは丸山橋を橋長四五メートル、幅員六・五メートルのものを作りまして、この事業費が二千百十三万六千円かかつております。あとはそ



のダムの用地の買収費でございますが、田、畑、山林合わせまして七六、五八三ヘーベを買収費として支払っております。これが千百六十一万一千円で、総四十三年度の事業費におきましては、一億八千九百七十万円かかつております。この一億八千九百七十万円に対する二五％を安房土地改良区が県に負担金として納入しておりますが、この額が四千七百四十二万五千円でございます。

なお、平久里川の防潮堰の工事の内容を簡単に申し上げますと、これは皆さん御承知のように、平久里川の下流の潮どめを行ないまして、農業用水を確保しようということで、昭和橋の上流一〇〇メートルの地点に設置いたしましたる工事でございますが、これは四十二年度より四カ年で行なう計画で進めております。

事業内容を簡単に申し上げますと、本体鉄筋コンクリートの支柱を三基建てまして、門扉これは鉄扉でございますが、これを二基、それから付帯工事といしまして、電動式の巻き上げ機、それから護岸工事、水たたきというような事業を工事費七千五百万を予定しております。四十二年度事業としましては、支柱一基と護岸工事を総事業費一千万円で実施したわけでございますが、四十三年度事業としましては、支柱を一基、それから水たたきあるいは鉄扉の部分品、これをつけまして、総事業費二千万円でございます。この負担金として五百万円を県に分担金として納入するわけでございます。

それから、最初の四十三年度の決算の内容でございますが、歳入としまして、六千二百四十二万九千五百八十円でございます。これは賦課金、補助金それから借入金等を合わせた合計でございます。歳出につきましては、六千十一万八千四百十八円でございます。

これは改良区の運営費、あるいは県に対します分担金、それから代替地の造成費、こういうようなものを含めたものでございますが、差し引き残金が二百三十一万千六百六十二円、これは次年度へ繰り越そうということでございます。細部



内容につきましては、説明書のとおりでございます。なお、御参考までに申し上げますが、四十四年七月二十三日に総代会で決定されております。

次に四十四年度の事業の概要を申し上げます。二七ページをお開きいただきたいと思ひます。四十四年度の事業の内容でございますが、余水げけ工としまして、グラウト工、これはセメントを圧力によりまして、注入して漏水を防ぐ工事でございます。それと減勢工二九メートルでございますが、これも水量の調節工事でございます。

その次に取水設備でございますが、取水塔一基、高さが二八メートル、それから取水管が八〇〇ミリ、これは小さい堰と言ひますか、せんのような役割をするものですが、そういうようなものをつくる。それと、つけかえ道路一六二メートルは、ダムの中に今まで道路がたぐさんあつたわけでございますが、これをつけかえる工事として一六二メートルを予定しております。それから、その周囲にありました道路を橋のつけかえが道路で七九メートル、つり橋が一個、橋梁五ということでございます。

四十四年度の新しい事業といたしまして、幹線水路がいよいよ始まるわけでございますが、これはダムのところから五三六メートルを四十四年度で実施いたしたいということでございます。その他用地の買収費の田六、四四五ヘーベ、山林一三三、五九五ヘーベ、畑で一、一二〇ヘーベの買収をするということでございます。

なお、平久里川の潮どめ工事の四十四年度事業といたしましては、支柱を最後の一基とあとは護岸工事、水たたき、それから鉄扉の付属品等を入れまして、総事業費二千六百万円を見込んでおります。その分担金二五％は六百五十万円でございます。

予算につきまして、一五ページの次にページが入つておりませんが、歳入合計一億二千七百二十八万三千円、これは組合の賦課金とそれから補助金、あるいは借入金等の合計でございます。それから、歳出につきまして、一億二千七百



二十八万三千円、これは工区の運営費並びに県に納入いたします分担金、その他総合計でございます。以上申し上げまして、安房中央土地改良区の経営状況報告を終らしていただきます。

○ 議長 (西村真次君) 議案第五十二号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第五十二号 館山市身体障害者家庭奉仕員派遣事業に関する条例の制定について

○ 福祉事務所長 (斉藤武男君) 館山市身体障害者家庭奉仕員派遣事業に対する条例について御説明申し上げます。

本条例は現在行なっております老人家庭奉仕員制度と全く同じものでございますが、目的、定義が違うわけでございまして、ここに提案申し上げた次第でございます。

本条例は身体障害者で、一、二級に相当します重度の身障者で日常生活上著しく支障のある身障者の家庭に対しまして、老人家庭奉仕員制度と全く同じように無料で職員を派遣いたしまして、日常の身の回りの世話をしてあげたいという事で提案したわけでございます。

館山市におきましては、この身障者の手帳を保持しておる方が五百四十八名ございます。このうち、一、二級に該当します重度の方が二百十三名おりますが、この一、二級の重度と申しますと、上肢の場合、両上肢の機能が全然きかない。また、下肢で申し上げますと、両下肢の大腿の二分の一以上欠いてないとか、また、目で申し上げますと、〇・〇二以上、ものが全然見えないという方たちでございます。ただし目が見えないといいますが、あんなまさんでありますとか、そういうような関係につきましては、働いておる方が非常に多いわけでございます。こういう方は、この条例の適用はございませんで、条例の第三条にございますように、重度の身障者で日常の生活に非常に支障がある。また、低所



得世帯ということでありまして、その看護ができない状態の家庭におきまして、この制度によりまして派遣したいというところでございます。

本条例の提案に先立ちまして、この調査をしたわけでございますが、これに該当する方が現在五、六名おるわけですが、内容につきましては、老人家庭奉仕員制度と全く同じでございますので省略させていただきますが、この第三条の低所得の家庭と申しますと、生活保護法によります保護世帯、それから市民税の非課税か均等割のみ課税されております家族または本人ということでございます。

それから、第四条の家事、介護に関すること、それから相談、助言に関する事項でございますが、これは食事の世話、衣服の洗たく、補修、あるいはお住まいの整理整頓、掃除ということでございますが、また、生活上のいろいろの相談、助言、指導というふうなことです。

第五条にいきまして、派遣回数及び担当世帯数でございますが、これは現在やつております老人家庭奉仕員と同じように一日おきに週三回巡回いたしまして、大体担当数は六世帯ということを一応予定しておるわけでございます。

第六条の奉仕員の身分、資格でございますが、大体二十五歳以上から五十歳ぐらいまでの女子の方でございます。それで、これは臨時でございますけれども、常勤の市の職員でございますので、市の職員服務規程及び臨時職員就業規則に準じまして、取り扱つて参りたいというふうに考えておるわけでございます。なお、本奉仕員は国の補助対象になつておりまして、月一万九千二百円を限度額といたしまして、その三分の二の補助がでございます。追加予算に計上してあるわけでございますが、一日賃金としまして、千百円支給したいということでございます。以下省略させていただきます。以上簡単でございますが。

○議長（西村真次君） 議案第五十三号を議題といたします。



議案第五十三号 館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定について

○ 市民センター館長 (羽山房雄君) 議案第五十三号について御説明いたします。

市民センター条例第七条使用料の一部改正をしようとするものでございます。別表第四付帯設備使用料のうち、照明設備欄中、シーリングスポットライト、これは二百円を三百円に改めますが、シーリングスポットライトというのは、ホール天井部から舞台上を照明するものでして、従来六台連立でありましたが、照明度が若干不足きみでありましたために、五割の三台を増加いたしましたして、九台連立にした結果の値上がりでございます。なお、センター開設以来舞台照明にその必要性をしばしば要請されておりますが、このピンアークスポットライト、これは客席の一番後方から舞台の中央あるいはそでに対して強力なスポットを当てるライトでございます。ローアーホリゾンライト、これはホリゾン幕を下から照らす舞台の一番奥の幕でございます。これを照らすライト。それから、オーロラマシン、舞台の一番奥あたりにおきましてにじのような光を自動的に反射するオーロラマシンでございます。あるいはステージスポットライト、舞台の両そでから舞台に向つて光を放つ。こういうものを購入、整備いたしましたして、舞台の照明効果をあげまして、その利用に応じようというものでありまして、この使用料金につきましても、他の公立文化施設の使用料の例にならしまして、このような金額に規定いたしたい。こう考えております。

さらに舞台設備欄表を次のように改めようとするものでありまして、従来楽壇一式五百円と規定してありましたが、楽壇の使用状況からこのように規定することが公平を欠くくらいもありますので、今回の改正でこれを一個五十円としたい所存でございます。それからまた、金びょうぶ、スクリーンにつきましても、この機会にこのとおり規定いたした



い。さらに拡声装置、長机につきましても、よそのセンター等の例を参考にいたしまして、新たに規定しようとするものでございます。

最後に別表第五として、土地使用料を規定しようとするものですが、この料金につきましては、使用の目的に興行とか、あるいは農機具展、自動車展示、共進会というものがあつて、その規模だとか期間等が一定してあります。従ひまして、ここに十万円を限度として市長がその都度別に定めることといたしました。以上、この条例改正は昭和四十四年十月一日から施行することといたしまして、歳入の適正な確保をはかろうとするものであります。よろしく御審議をお願いいたします。

○ 議長 (西村真次君) 議案第五十四号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第五十四号 館山市厚生年金保険被保険者休養施設設置条例の一部を改正する条例の制定について

○ 商工観光課長 (山田俊康君) 議案第五十四号について御説明申し上げます。

厚生年金保険被保険者休養施設設置条例、国民宿舍鳩山荘の設置並びに運営について定めた条例の一部改正をお願いしたい。今回のお願ひは、使用料の宿泊料、食料の改正であります。

午前中、市長から提案説明の際に申し上げましたように、国民宿舍については、厚生省の監理、監督等を受けております。料金については、その規制がなされております。今回厚生省からの通達で人件費の高騰、あるいは管理諸費の高騰等によりまして、国民宿舍が健全な運営が困難となりつつあるので、利用者に対する処遇の低下等を招かないように使用基準を改定するという通達が参りました。



それによつて、今回この改正案を提案したわけでございます。

宿泊欄中の「五百円」を「五百七十円」に、五百円というのはおとな一人五百円と従前ありましたものが七十円アップされまして五百七十円に。「三百円」を「三百七十円」に、三百円といひますのは中学生が一人三百円でありました。それを三百七十円に。小学生「二百五十円」を「二百七十円」二十円アップであります。

食事欄中「百五十円」を「百六十円」に。これは朝食であります。朝食が百五十円であつたものを百六十円に。「三百五十円」を「三百七十円」に、夕食であります。夕食を二十円アップして三百七十円に改めたい。これによりましておとなが従前一泊二食で一千円でありましたものが千円になります。中学生は八百円でありましたものが九百円、小学生は七百五十円でありましたものが八百円になります。なお、この使用料の適用は十月一日から行ないたいというこゝとて提案した次第でございます。以上でございます。

○議長（西村真次君） 議案第五十五号を議題といたします。

（書記朗読）

議案第五十五号 館山市防災会議条例の一部を改正する条例の制定について

○庶務課長（小倉澄男君） 議案第五十五号につきまして御説明申し上げます。

館山市の防災会議条例というものがございますが、その中に委員といたしまして、条例に七種類の方々のそれぞれの職を持たれた方を市長が委員として委嘱しておるわけでございますが、その中で千葉県知事が指名するもの、市の教育長であります者、市の担当であります関係各課長である者というものが入つておりますが、これは県の防災課のほうの指示によりまして、指導要領によりましてつくつたものでございまして、館山市の地域性に即した委員が盛られてない



というくらいがございましたので、先般来県の防災課等とも協議いたしましたして、館山市独自で条例を改廃してよろしいというような了解も取りつきましたので、このたび特にその中で、一つは館山市の部課設置条例の改正によりまして、農林水産が農産と水産に分かれたという点、それで一名ふやしました。さらに市内の公共的な諸機関の長という欄を今まで三人でありましたものを七名ふやしました。たとえて申しますならば、自動車運送業とか、タクシー業とかそういうようなもの、さらにガス、水道、これも館山市の地域性でございしますが、館山航空隊、それから医師会、こういうものを特にお願いたしましたして、重要な配置についていただかなければならないので、この方たちを防災委員として追加認定いたしましたして、防災体制の万全を期したいということで、この委員の数を変更する一部改正の条例でございします。さらに、第七項を削るといいますのは、最後の七号の公共事業的な機関の長、市長が指名した委員さんに特に任期をうたつてございましたが、やはりその会社名とか、職名をもちまして、御委嘱いたしますので、特にここだけ任期をうたうということも、いわゆる長の異動等によりまして、そのつど、つどかわつて参りますので、その職をもつて委嘱するという形を取りました関係上、二年という任期もこの際削つていきたいということの改正でございします。よろしくお願いたします。

○ 議長（西村真次君） 議案第五十六号を議題といたします。

（書記朗読）

議案第五十六号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について

○ 人事課長（小沢正治君） 議案第五十六号について御説明申し上げます。

職員給与条例の一部改正でございますが、この中で、第十三条というのは職員の特殊勤務手当でございます。その第



二項の第十三号と申しますのは、清掃従事手当、この清掃従事手当を衛生処理従事職員とごみ処理従事職員という形で、し尿部門とごみの部門との二種類に分けてございます。従前この従事者一日百五十円と百円ということで規定してあつたわけでございますが、百五十円がし尿処理の作業でございますし、百円がごみ処理作業でございます。これを定額でうたつてあつたわけでございますが、し尿処理の百五十円を四百円以内、それで、ごみ処理作業の一日百円を一日三百円以内に改めたいというわけでございます。

その目的とするところは、最近ごのような職種について非常に求人難になつてきたということと、その関係から現在従事しております職員が、非常に老令化してきておる。これらの新陳代謝を積極的に行ない、そうしてその業務の効率化を推進するためには、どうしてもやはり給与改善が必須条件となつて参ります。そういう関係で、これをし尿処理の場合、百五十円を四百円以内と改めまして、ごみ作業の場合、三百円以内ということにいたしました、さらにこの作業の効率化をはかるために、かまわず定額の四百円、三百円でなくて、皆勤精励した者の最高限度額をこの額といたしまして、欠勤の多いものは一定率をもつて減じていく措置を講じていきたい。そういうことによつて効率の確保をはかりながら、そうして労働力の確保、新陳代謝をはかつて参りたいという考え方でございます。それで、この改正は九月一日から適用して参りたいというふうに考えておる次第でございます。

○ 議長 (西村真次君) 議案第五十七号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第五十七号 館山市議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償に関する条例を廃止する条例の制定について

○ 人事課長 (小沢正治君) 議案第五十七号について御説明申し上げます。



館山市議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償に関する条例を廃止しようというわけでございます。この条例につきましては、地方公務員災害補償法という法律が施行されて、昭和四十二年十二月一日に施行されたわけでございますが、この法律の中で、常勤の一般職でない議会の議員、その他の非常勤の公務災害補償については、各地方公共団体において独自でこの法律に準じた独自の条例をもつて制度化するようにということに基づきまして、当市といったしましても、この条例を制定して今日まできていたわけでございます。

ところが、これらの災害補償制度というものは、でき得る限り広範囲で実施されることが望ましいわけでございまして、特に県下の町村分野におきまして、ぜひ県下で一本化して何とか策が講じられるようにという考え方から、いろいろと方策を講じて参つたわけでございますが、たまたま職員の退職手当に対しまして、退職手当組合があるということで、この退職手当組合の規約改正をいたしまして、この組合を千葉縣市町村総合事務組合ということに名称を変更すると同時に取り扱い業務を増加いたしました。この関係の災害補償業務も、この組合で実施していくことになったわけでございます。それで、この業務を本年の十月一日から施行するという形になりましたので、従つて、当市もこの組合の加入市でございますので、独自の条例も必要なくなるので、これを廃止したいというわけでございます。従いまして、施行規則の第二項におきまして、これが廃止された後に公務上の負傷、疾病等によりまして、後日災害補償をすべき義務発生の場合には、経過措置といたしまして、従前の例によつてその補償は行なうということと、それからこの一つの条例の中で、制度といたしまして、災害が発生した際に災害補償認定委員会の委員、それからこれらに対するの災害補償審査会の委員という二つの委員制度を持つておりましたので、これが日額報酬といたしまして、非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の中で、これらの委員が掲げられておりますので、それらの制度も必要なくなりますので、これを削りまして、十月一日以降廃止しようというものでございます。

○ 議長 (西村真次君) 議案第五十八号、議案第五十九号を一括議題といたします。

(書記朗読)



議案第五十八号 市道路線の認定について

議案第五十九号 市道路線の認定及び廃止について

○ 土木課長 (飯田治男君) 議案第五十八号について御説明申し上げます。

市道九重停車場線、これは国道一二八号線の改良工事に伴いまして、九重地内の廃道になつたところを市道として認定しようというものでございまして、九重の駅から新しくできました新道までの間、延長二三〇メートルを市道として認定しようというものでございます。

議案第五十九号、市道路線の認定及び廃止についてでございますが、九重の二号線、これも一二八号線の改良に伴いまして、今まで旧道に取りつけていたものを今度新道に取りつけなければなりませんので、約二〇メートル延長いたしました、新しい国道へと取りつけましたので、起点の番地がかわりまして、約二〇メートル延長が延びたわけでございます。

それから、次の一八九号線でございますが、これは昭和六年頃だと思ひますが、道路の改良工事をいたしまして、現在まで路線の認定、変更をしないできておりましたものを、この際今年予算化されている部分もございまして、この際認定がえをするものでございまして、二中の通学道路と交わるところを起点といたしまして、三福寺橋を通りまして、東京電力の橋を通りまして、新宿から長須賀のべに屋に至る道路へと接続するところまででございます。その間の旧道は現在高山という塗装屋さんのちようど跡にございます道が今まで認定されていた道路でございまして、それを北条のほうから参りまして、そのすぐ手前の道路に認定がえをしようというものでございます。以上でございます。

○ 議長 (西村真次君) 暫時休憩いたします。



午後二時 九分 休憩

午後二時四十一分 再開

○議長（西村真次君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案第六十号を議題といたします。

（書記朗読）

議案第六十号 昭和四十四年度館山市一般会計補正予算（第三号）

○財政課長（長谷川広治君） ただいま上程されました議案第六十号につきまして御説明を申し上げます。

一般会計の第三号の補正予算でございますが、今回計画をいたしましたものは、第一条にお示しをいたしてございまして、歳入歳出にそれぞれ八百十六万九千円を追加をいたしまして、追加後の金額がそれぞれ十四億一千八百六十八万ということにいたしたい予定でございます。なお、今回純追加額といたしましては、歳出面におきまして三千六百七十八万一千円、歳出面における給料等の振りかえ等も含めまして二千八百六十一万二千円の更正減でございます。歳入面におきまして、純追加額が三千百八十万五千円、更正額が二千三百六十三万六千円ということになりまして、それぞれ歳入歳出追加額が八百十六万九千円ということに相なります。この補正予算が御決議をいただきますと、財源構成が、特定財源が〇・八四％減りまして、一般財源が七〇・三一％ということにわづかでも好転をいたしてございます。

歳入歳出のそれぞれの区分でございますが、第一表三ページから五ページまで掲載してございます。説明は九ページ



からの事項別明細書により逐次御説明を申し上げます。

なお、今回第二条におきまして、地方債の補正をいたしてございます。これは、歳出におきまして、御説明申し上げる予定でございますが、小規模草地としての豊房の牧場関係の工事、それから漁港関係の修築、整備の負担金の事業等が、事業量が減りましたために、御承知のとおり、起債は事業費から特定財源を引きまして、その残りの何%かを許可するという制度でございますので、従いまして、事業量の減によりまして、起債の減額がございますので、それを更正をいたしてございます。これはのちほど歳入の面で御説明を申し上げます。以上で総括説明を終らせていただきまして、引き続き一五ページの歳出から御説明を申し上げます。

財政課所管の予算といたしまして、今回一般管理費十八節の備品購入費七万一千円の中に庁用器具費として二万円を計上してございます。これは急に机等がいたんで参りましたのが四脚ばかりございますので、これの購入費でございます。

次の財政管理費として、旅費の不足額二万七千円計上いたしてございます。これは年の当初に研修等が開かれまして、それに伴います旅費と年間不足額が二万七千円程度に総額なる予定でございますので、今回追加をいたしました。

五の財産管理費で賃金が十九万六千円としてございますが、大体十月一日に正規定員の者を一名転出をさせる予定でございますので、その空白を臨時職員で向こう三月まで埋め合わせをいたしたいということで、三月までの賃金十九万六千円を計上させていただいております。以上で財政課所管の説明を終らせていただきます。

○ 庶務課長 (小倉澄男君) 庶務課所管の補正予算を御説明させていただきます。

一五ページでございますが、その一般管理費の中の十一節需用費印刷製本費十七万三千六百三十円でございますが、これは本年度の当初予算に市の例規類集の追録代といたしまして、四五〇ページを予想いたしまして、六十二万八千円



の計上をお願いして御決議をいただいたのでございますが、本年度というよりも、この十二月から種々なる諸条例、諸規則の改廃がございまして、結果的に五七二ページの多数にのぼつてしまいましたので、結局十七万三千六百三十円不足する事態が生じて参りましたので、ここにこの補正追加をお願いした次第でございます。

それから、次の十八節の備品購入費の中の図書購入費二万一千円でございますが、これは最近非常に民事的な諸法規的な諸問題が取り上げられて参りまして、係といたしましても、民事的な諸問題を研究いたさなければならぬ状況になつて参りまして、たまたま民法の判例体系、民法総則というものが出ております。これをぜひ購入いたしたい。八巻で二万一千円でございますので、これは追録をして参りまして、あらゆる判例がここに挿入されていく図書でございす。それから、一五ページの下の方の九目防災対策費でございす。十八節の備品購入費、市長の提案理由の説明の中にもございましたように防災体制の強化ということで只今迄いわゆる通信機関とか、そういうものが途絶してしまつた場合に現在では殆んどめくらになつてしまいますのでどうしても国、県等に連絡する為に更に市内の医療機関等の出動を要請したり自衛隊とか警察署、消防署等の出動を要請いたす場合に市におきます防災本部にも無線の配置を必要とするということで考えたのでございますが防災無線という特別な装置がございす。この場合は相当多額の経費も要しますこと、防災無線という周波数の申請もしなければなりませんので、たまたま市におきまして、消防無線にS・S・Bという、消防本部におきまして、携帯無線をもつて連絡業務に従事しております。その消防無線に乗せていただきまして、市に携帯無線を四機購入いたしましたして、市役所に一機、それから警察署に一機、海上自衛隊に一つ、それから医療センターに一機ということで、とりあえずこの四機を、最小限度の四機を購入いたしまして、通信機関が途絶した場合にも警察署、消防署、自衛隊、医療機関と連絡を密にして、発動応援体制が敷いていただけるといふ体制に持つていきたいと思ひます。



なお、警察にはさらに警察無線というのがございまして、県と直接の連絡がございまして。更に自衛隊は自衛隊の無線がございまして国との連絡がつくという事で館山市の防災本部を通じて、県、国との連絡もこの携帯無線によつて連絡ができる非常に便利なものでございますので、ぜひこれを購入して万全を期したいという次第でございます。この携帯無線が一機について十三万八千円、四機の代でございます。

それから、次の一六ページでございますが、十三目諸費の中の八節報償費でございますが、そのうち災害等罹災者見舞金二十五万六千円を追加補正お願いしたわけでございますが、これは六月定例会において御決定いただきましたときにもお話しを申し上げておりますが、そのための予算をここに計上した次第でございます。なお、参考までにただいままでに起こりました、実施いたしました御見舞の状況でございますが、死亡が六件、これは列車に子どもがひかれた乗用車、クレーン、ダンプ等によりまして、なくなられた不幸な方々の六件の死亡事故がございまして。さらに非住家でございますが、落雷等によりまして火災が二件、その他交通事故、これは自転車等に乘つておりまして、はわれられましたものが三件、計十一件の現在まで御見舞金を差上げたケースがございまして。これら等を勘案いたしまして今後の発生を予想いたしました結果、二十五万六千円という額をお願いするわけでございますが、死亡とか負傷は大体平均的に月に二件ぐらいという形で現れたわけでございますが、火災というのは、これからたまたま火災シーズンといいますが、火災時期になりますので、全焼、半焼合わせまして二十件、おおよそいたしまして、二十五万六千円をお願いした次第でございます。

それから、一六ページの統計調査費でございますが、八目全国消費実態調査費八万六千円を追加補正いたしました。これは国の指定統計でございまして、国から全額補助金が参りまして、委託料として補助金が参りましたものを、報償費、旅費、食料費、通信運搬費等に分けて、八万六千円をお願いした次第でございます。以上でございます。よろ



しくお願いいたします。

○ 秘書課長（太田博雄君） 秘書課に関する予算につきまして御説明申し上げます。

一六ページをお開き願います。上段にございます十一目市史編さん費の四十万六千円でございますが、現在では資料等の収集も大体終りまして、翻訳、一部執筆の段階に入つておるわけでございます。当初は資料の収集に相当困難をきたしたのでございますけれども、その後市民の方たちからの積極的な協力を得まして、思いのほか、資料が次々と提供されておるわけでございます。その量も、実は予想以上の文献が集まつたのでございまして、この翻訳等に対しまして若干今後のものもある程度予定いたしまして四十万円補正させていただきました。なお、六千円の需用費につきましては、この翻訳等に伴います消耗品でございます。

次に十三目の諸費の報償費の説明欄にあります報償金の十五万円でございますが、これは来たる十一月三日の市制施行三十周年記念行事といたしまして、過去何度か教育委員会で計画いたしましたので、まだ実行する機会も得られなかつた市内全域の小、中学校の生徒を一堂に集めまして、音楽あるいは体育、学芸等を、この三十周年記念にちなみまして、二中において行なう計画でございます。この費用につきましては、先般来百万円の三十周年記念費を議決していただいておりますのでございますけれども、生徒の輸送費、消耗品等多少不足が生じますので、ここに十五万円補正をお願いする次第でございます。よろしくどうぞ。

○ 商工観光課長（山田俊康君） 一五ページをお開き願います。十目交通安全対策費について御説明申し上げます。

今回、補正でお願いいたしました額は五十四万円、工事請負費で五十万、交通安全施設工事請負費としてお願いしてございます。これは、館山中央ライオンズクラブから交通安全対策施設寄付金として四十万円が館山市に寄付された。それに市費十万円を加えて張り出し式の反射式の横断歩道標識を通園、通学路に立てて交通安全をはかりたいと



いうこととお願ひする次第でございます。現在警察当局と話し合ひまして、あるいは寄付されました中央ライオンズクラブの方たちとも話し合ひまして、予定としては館野小学校の入口、これは保育園のそばでございます。それから、高井証券の十字路、桜井材木店の三差路北条海岸でございます。那古海水浴場の入口、大和屋旅館の上でございます。船形の西山商店前、この五カ所が予定されて現在警察署におきまして、この標識を建てるための土地交渉をしております。なおこれらのうち、できない場合には、相浜のバス停のそば、あるいは房南中の前というふうにそれぞれかわつていくことになっておりますけれども、一応現在のところ、当初申し上げました五カ所が予定されておりますのでございます。一カ所十万円で五カ所ということでございます。

なお、需用費消耗品で二万円被服費としてございますが、これは実は、市で交通指導要員というのを各課から選抜してございます。

市が中心となつて行なう行事、催しあるいは事業等行ないますが、それに参加する人たちの安全をはかるために、各課から特に選抜されて訓育された者がおるわけですが、その者たちに要する帽子、腕章、手ぶくろ、警笛等の消耗品を購入したい。それから、次の一六ページに備品費というのがございます。備品購入費で二万円、婦人交通指導員の被服の購入費、当初予算でお願いしましたときに、ちよつと見積りが少し安過ぎて、今後冬服等を買うにあたりまして、不足する額を補正でお願いしたわけでございます。なお、財源といたしましては、本年度は特に県のほうから一人一万円程度の補助を出すということで、一応五万円を予定しているわけでございます。以上です。

○ 市民課長 (山口 実君) 一六ページ、十三目諸費二十三節償還金利子及び割り引き料三十万円について説明を申し上げます。

当初予算におきまして、三十万円の予算をお願いしたのでございますが、すでに過年度の法人税でなくなりましたの



で、今回再び三十万円お願いしようというものでございます。

次に二項徴税費でございます。七節賃金でございますが、明年度は固定資産税の評価がえの年でございまして、市の固定資産全部につきまして評価がえすることになりますので、それらの準備といたしまして、九月から来年の三月まで六人の臨時職員を雇い上げまして、準備を完了したいと思っております。

次に十八節備品購入費十一万二千元でございますが、これは現在、これらの事務をやるに手回わしの計算機を使つてやつておるわけでございますが、この機械を買いますと、二倍乃至三倍の能率が上がるわけでございます。

この機械は早川電機株式会社の製品でございます、CS一二A型、これを十二万円で購入しようというものでございます。

次に一七ページの三目の国民年金事務費十八節備品購入費としまして十一万二千元、これはただいま説明しました卓上計算機でございますが、これは国民年金の事務費でもつて購入いたしましたして、補助金を県から要求しようと思ひまして、ここに計上したわけでございます。以上でございます。

○ 監査委員事務局長、(石原 斉君) 一七ページの上段を見ていただきたいと思ひます。

監査委員費、今回補正をお願いする内容は、七節の賃金九万六千元でございます。これは臨時職員の十二月まで四ヵ月間の賃金でございます、事務内容は各会計の決算審査に伴う事務が短期間に処理しなければならないという状態にございますので、臨時の職員を入れて、期日までに事務を執行したいという考え方でお願ひした次第でございます。

○ 福祉事務所長 (斉藤武男君) 一七ページ、三款民生費一項社会福祉費につきまして御説明申し上げます。

今回、補正をお願いするのは十四万でございますが、このうち八節報償費二万二千元の減額でございます。これは老人慰安会の講師の謝礼としまして、昨年医師会の先生によります講演をお願いしておつたわけでございますが、本年



はこれをいたしませんで、従来中食としまして、パンを出していたわけですが、これを七十円程度のすしの弁当にかえたいということで、十一節需用費の食料費二万二千円計上したいということでございます。

十一節需用費の身障者家庭奉仕員の消耗品七千五百五十円につきましては、先ほど条例でお願いしましたように、十月一日から一名お願いして業務を担当するという事で、関係の消耗器材費等でございます。十八節の備品購入費につきましては、同じく身障者の家庭奉仕員の自転車購入代でございます。

二項児童福祉費でございますが、今回補正をお願いするのは、四百三十九万五千円でございますが、これは説明欄にございますように、今回家庭児童相談室が県のモデル地区に指定されまして、その事業の推進としまして、六万円の補助、さらに青少年の健全育成のための仕事といたしまして、青少年と青少年関係者が一堂に集まりまして、お互いに研修し合うということで、この事業の補助金が十万円あつたわけでございます。ということで、一七ページの八報價費六万円、さらに一八ページの九節旅費、十一節需用費、十二節役務費、十四節使用料及び賃借料がこのつどい大会、家庭児童相談室のモデル推進地区としての運営費にそれぞれ必要な経費を計上したものでございます。

十五節工事請負費でございますが、三百九十六万円、これは、この九月におきまして西岬の塩見、それから青柳、この二館分をお願いしたいということで計上したわけでございます。当初予算におきましては、西岬の伊戸、那古の浜、豊房の畑三館分の新築と、波左間の一部改築をお願いしたわけですが、非常に青年館に對しまして、地元の要望がたくさん出ておりますので、本年この二館分の追加をお願いするわけでございます。なお、一館につきましては、百九十八万でございますが、この財源は、四十四年当初におきまして、県では一館五十万円の補助ということで予算を計上したわけですが、このほどそれが十万円建築単価が増加をしたということで、一館本年から六十万の補助になつたわけでございますので、この六十万と、市の補助金五十万合わせまして百十万円、それに地元負担金、寄付金



八十八万円を合わせまして百九十八万円ということで計上したわけでございます。

十八節備品購入費でございます。県の補助が一館に対しまして五万円でございますので、同額市の補助を出しまして、二分館ということでございます。

三目の児童福祉施設費でございますが、今回補正をお願いしましたのは、七万五千円でございます。内容につきましては、那古の純真保育園が本年新築しておりまして、すでに園舎のほうが完成いたしましたして、この電話の移転手数料四千円、それから火災保険料としまして八千円、これはこの純真保育園と館野の保育園が一部増築をしておりますので、保険料の不足分の額をここに計上したわけでございます。

十九節の負担金でございますが、説明欄にございますように、船形保育園と純真保育園の三芳水道流末工事の負担金ということで、六万三千円お願いしたわけでございます。以上でございます。

○ 保健衛生課長補佐（森信次君） 保健衛生費について御説明申し上げます。七節の三万五千円でございますが、これは需用費でございますして、自動車等の修繕料でございます。

○ 衛生施設課長（大嶋重義君） 引き続きまして、二項の清掃費について御説明申し上げます。

七節の賃金で三百四十五万二千円の追加でございます。これは臨時作業員の賃金が当初予算におきまして、四月から男は一日九百円、それから女の作業員は八百二十円で支給して参っておりますが、この仕事はあした特殊な仕事でありますことと、賃金が低いということで、作業員の定着性がなくて、作業の面で非常につづいておるわけでございます。そういうことから考えまして、この賃金を男を千二百円、女を千円に賃上げをいたしたい、こう思うものでございます。この千二百円と千円の関係でございますが、大体、今市内の一般の業界の実態を調査いたしますと、まあ普通の場合でも千五百円前後、あるいはそれ以上の資料でございますので、一応こうした金額が妥当ではなからうか、こう考



えたわけでございます。それで、これでいきますと、先ほど人事課長から清掃作業員の特殊手当の關係の説明もございましたんですが、その特殊勤務手当が一日最高限度三百円でございますので男の人は普通に出た場合には一日額が千二百円の三百円ですから千五百円女の作業員が千百円の三百円で千四百円という一日の賃金収入になるわけでございます。それで、現在作業員が全部で臨時の作業員ですが十七名おります。男が十一人に女が六人でございますが、こうした今回の値上げをしますことによつて、この九月から来年の三月までの七カ月分でございますが、その不足分と、それから当初予算に臨時の賃金がその後若干ふえました關係で、この分等の賃金を含めまして、七カ月間の不足額を三百四十五万二千元お願いするものでございます。

次に八節の報償費から十五節の工事請負費までのものは、先ほど市長から説明がございましたんですが、ごみの新たな埋め立て処理地のものでございますので、概要を申し上げます。

現在、ごみ類は一切正木の処理場にこれを持ち運びまして、燃えるものについては焼却処分いたしますし、それから水分の多いものとか、それからガラス、せともの等の危険物、それから毎日炉から残灰が四、五トンが出るわけですが、こうした灰とか、最近では建築の廃材、かわら、セメントいろんなものがありますが、それから側溝等の土砂類があるわけですが、こうしたものは、今まで処理場の裏の敷地にその都度集めまして、ある一定の時期を見まして、ブルトーズーをもつて埋め立てを繰り返して処理して参つたのでありますが、最近こうした燃えないごみの量が多くなりましたし、こうした繰り返しによつてその土地も相当隆起して参りまして、これ以上、あの場所に埋め立て処理をすることはむずかしくなりましたので、これにかわるべき埋め立ての場所を先般来から物色しておたわけでございますが、適当な候補地が見つかりましたので、地元の部落だとか、地主の方等の借り上げの交渉をいたしたわけですが、一応まとまりましたので、これに要する借り上げ料とか工事費を今回計上したわけでございます。



なお、新しいごみの捨て場所の関係でございますが、場所ですが、これは豊房地区でございます。こちらから参りまして、神余の県道の隧道がございます。あの手前二〇〇メートルぐらいのところ右のほうに入るふところがございまして。そこにちょうど山合いの盆地がございまして、回わりが山でかこまれておるところでございます。人家も近くにはございません。そうした関係で、環境衛生上も何ら心配がない。こういうところでございます。その面積でございますが、回わりの山が共有地でございますが、必要なところが約四反でございます。それからくぼんだ下のほうに農地が一部ございます。これが約一反八畝、これは個人の所有地でございます。大体六反近くの土地を使つて埋め立てをかねて、ごみを投棄していこうという考え方でございます。それから借り上げ期間はこの十月から向こう五カ年間というところでございます。それから賃貸料でございますが、この山、それから農地ともにかまわず一反当たり一年一万円という、こういう条件でございます。

それでは、細部について申し上げます。八節の報償費でございますが、一万八千円でございます。これは下の農地が一反八畝あるわけですが、これにつきましては、現在稲と、畑につきましては、大豆、しょうがのようなものをやつておりますが、こういうものにつきましては、地主さん方は補償金はいらないうことで、非常に積極的に協力してくださるわけでございますので、こうした農地の関係につきましては、今年に限つて反一万円見当の謝礼金程度でこれを地主さんに報いていきたいというのでの計上でございます。

それから、委託料の二万五千円でございますが、あそこにごみを投棄しますと、いろいろと、また場所によつては不法投棄等も持ち込まれるのではないかというおそれもあるわけでございます。そうした関係で、あそこ西長田の部落におきまして、われわれの地元の土地であるし、市のそうした面に協力してふだんも不法投棄の監視とかあらゆる方面、ときによれば消毒もやりましょうということで、非常に積極的な協力をいただいておりますので、こうした面での投棄



管理の委託料として年額五万円でございますが、今年度はあと六カ月分しかございませんので、この二分の一の二万五千円の委託料でございます。

それから、十四節の使用料関係でございますが、この土地につきましては、一応整地作業をいたしますと、これから順次定期的にその場所にさつき申し上げましたような燃えないようなごみ類、ごみ類といひましても、危険物が多からうと思いますが、こうしたものを持つていきます。そうしたたびにブルトーザーを使うわけでございます。整地作業が繰り返されるわけでございます。こうして埋め立てをしなから捨てていくことを繰り返していくわけでございます。そのためブルトーザーが三十七万二千円でございます。

それから現在正木の処理場の裏も相当高くなつておりますので、やはりこれらのものを一応その場所に運んで整理したいということで、正木の処理場の整理分が三十万二千円、合わせて六十七万四千円でございます。

それから、十五節の工事請負費でございますが、現在のところ県道から入りまして、わずかな農道でございますが、一応トラック等が入つていけるような捨て場所も作らなければいけないわけでございますので、この捨て場所の整地費でございます。おもなものはこの敷地の造成関係で約六十万ということでございます。それからあとこれにはやはり排水ということが大事でございますので、排水管の工事、その他で二十六万三千円という内容、これを請負費で施行したいというものでございます。以上が西長田の投棄所の関係でございます。

それから十八節の備品購入費でございます。自動車購入費、これはごみ収集車は大型も含めて現在九台あるわけでございますが、そのうちの一台のものが、これはキャブオールといひまして、すでに昭和三十七年に購入したものでございまして、非常に古くなりまして、やつと使つておるといふ状態でございます。修理費等もそのたびにたくさん要します。この際一台この代替車を一台購入したいというものでございます。価格は小型収集車でダンブで一台九十万



でございますが、当初予算におきまして、自動車を購入いたしましたものの余りが二十万ほどございますので、その不足の七十万を追加願うものでございます。

次に三目のし尿処理費でございますが、七の賃金七万三千円、現在し尿処理場に臨時の職員が一人おります。この者に対する賃金の先ほどの値上げ等の関係の不足が七万三千円でございます。

それから、十三節の委託料でございます。

これは、藤原の処理場でございますが、藤原の処理場は、昭和三十八年の完成でございまして、すでに六年を経過しております。あおしたし尿処理という特殊な施設でございまして、相当各施設機械、器具等にもいたみも参つておるようでございます。大きな事故あるいは故障があつて、あの機能が停止することは、これは一ときも許されませんので、一応、そうした機能について調査をいたして今後に備えたいということ、いま一つは、夏場をその四王キロの処理量を越えて、相当多くのし尿が集められますが、これらは毎年今まで犬石の海岸地帯の松林をお借りしまして、そこに埋めて参つたのでございますが、もう地元のほうからも、今年限りということで断わられましたので、こうした関係につきましても、現在の処理場でオーバー分を処理する方法をこの際そうした機関に診断してもらおうということでの調査委託料の二十二万でございます。

次に三項の水道費でございますが、これは今回新たに目を新設しての追加でございます。二目に仮称西部簡易水道調査費として八十四万九千円の計上でございます。御案内のように、現在水道は、神戸の犬石までと、それから西岬のほうは波左間まで通じているわけでございますが、佐野から西岬の坂田までは水道がないわけでございます。そこでこの関係地域の住民からも強い要望もございまして、また最近この地域は急速な開発が行なわれる状況にございまして、そうしたことも考えまして、なるべく早く水道の敷設をいたしたいという考えでおりまして、そのまづ前提として、



水源調査を早く実施したいということをお願いするわけでございますが、水源につきましても、川がございませんで、一応地下水にこれを求めたいというものでございます。七節の賃金は大体それに必要な人夫賃でございます。九節の旅費、需用費につきましては、これに必要なものでございまして、付記のとおりでございます。

委託料の七十七万でございますが、これは一つには、電探による調査を実施するということが一つと、それから佐野地区に元軍が使つた井戸が二本あるわけでございます。深井戸二本をこの際揚水試験をやつてみたいという内容のもの七十七万でございます。なお、この井戸でございますが、一応この揚水試験につきましては、地元の所有者あるいは地元の部落の内諾を得ておるものでございます。それから、この費用につきましては、県からの補助が十万円つくことになっております。以上でございます。

○ 農業委員会事務局長 (畠山市治郎君) 農業委員会につきまして、今回二十三万円の追加をお願いする次第でございます。その内訳は、九節の旅費十五万、これは委員の費用弁償でございます。

十節交際費五万円、需用費三万円、これは神戸の砲術学校跡、館山海軍航空隊の爆弾投下所の跡、郊外酒保の跡の雑種地及び道路の廃止、道路の払い下げの分として約十一万坪でございます。約千百筆、これが近く登記所のほうに登記するわけでございますが、そのために会長交際費とそれに伴う消耗品を三万円お願いした次第でございます。なお、この費用につきましては、二十九万七千円委託料として参つておる次第でございます。よろしく願ひいたします。

○ 農産課長 (石井 謀君) 二〇ページの農業振興費につきまして御説明申し上げます。

補正額を二百七十三万九千円お願いしたい次第でございます。内容を申し上げますと、十五節の工事請負費でございますが、これは二百二十万、これは農家の生活改善並びに農産物の産地の育成とか、そういうようなことに対していろいろ話し合いの場をつくるための場所でございますが、これが農村協同館として県より指定を受けまして、これが



総事業費で二百四十八万三千円、県の補助金を百万円見込んでおります。地元から九十八万三千円の負担金をいただきまして、市の負担金五十万ということで、農業構造改善事業の完了いたしました安布里地区を予定しておるわけでございます。建物につきましては、木造平屋建で約二十三坪を予定しております。

その次に十九の負担金補助及び交付金でございますが、補助金として二十五万六千円をお願いしたいわけでございます。これは現在農業の就業者が非常に少なくなつてきておりまして、なかなかその労働力が不足して困るということで、部落の共同によりますところの作業と、あるいは機械化によりますところの作業を一つの部落を指定いたしましたので、その基礎を調査する費用でございますが、九重の酪農業組合が県の指定を受けまして、本年度実施することになつたわけでございますが、それに要する経費が二十万六千円で、県から十三万六千円の助成があるわけでございます。

その次にしいたけの生産近代化対策の五万でございますが、これは山村の開墾のためにしいたけ組合に対して、県から、二万五千円の助成を受けまして、市が二万五千円もちまして、豊房地域のしいたけ栽培組合に対しまして、原木を切りますのこぎりを購入するというような事業に対する助成でございます。

その次に畜産業費でございますが、当初四千九百七十六万六千円を見込んでございますが、今回二千四十八万九千円の減額をお願いしたい次第でございます。十一の需用費の二万円の種子代でございますが、これは草地造成を行いまする場所が、排水路を先につくらないと下流にどろが流れるということで、この事業が若干遅れまするために、種まきの時期が本年度ちよつと無理ではないかという観点から、本年度二万円を減額させていただきたいということでございます。

次に委託料の八十九万五千円でございますが、これは豊房育成牧場の造成事業百八万八千円、それから九重団地の草地造成事業の二十九万九千円でございますが、この事業が、御承知のように山林を開墾いたしましたして、それからトラク



ターによりまして、肥料とか、あるいは種まきの作業まで行なう関連性のある事業でございまして、当初考え方は県の農業開発公社にお願いする考えておつたわけでございますが、たまたま当初予算の編成当時におきまして、県の開発公社が非常に事業が多いということで、工事請負費として計上したわけでございますが、今回公社のほうのいろいろな都合が何とかできるような見通しがつきましたので、委託料に組みかえさせていただきたいということでございます。

その次に牧道の設計委託料の減額でございますが、これは事業量の縮小でございます。

次に申し上げます内容で御了承いただきたいと思いますと思うんですが、牧道の変更の理由でございまして、当初周囲道路の開発整備ということに合わせて、牧道三、〇〇〇メートルを事業費三千万円で計画したわけでございます。

その後におきまして、県とか、あるいは農政局といろいろ協議を重ねた結果、事業費に、事業費は約一億でございまして、これに対する牧道の占める経費が非常に多いんではないかということで、再度また現地を調査したわけでございまして、結果的に当初三、〇〇〇メートルが一、一四三メートルということに変更をお願い申し上げたいということでございます。牧道の新設工事の減額で千七百三十三万七千円でございます。

それから、給水施設の百一万円の減額でございますが、これは当初予算の編成時におきまして、非常に山が大きな土手が多いために、なかなか細部計画ができないため、配管工事六〇二メートルでございまして、六百万を計画したわけでございますが、たまたま細部設計に入りますと、こういうような四百九十九万というような設計が出ましたので、今回補正をお願いしたいというわけでございます。

それから、電気工事の三百五十万、ここで減額になっておりますが、実際的には十九の負担金と関連がございまして、百五十八万七千円で済んだということでございますが、これは当初東京電力といろいろ話し合いをしまして、いろいろな意見も聞いて見たわけでございますが、神余の停留所から山まで全部線を引かなければいけないということで予算化し



たわけでございますが、たまたま東京電力のほうで細部の計画ができてまして、その金額が百五十八万七千円、こういうことに相なつたわけでございますが、これはあくまでも東京電力へ負担金としてお願いしたいということで、工事請負費を減額させていただきまして、負担金に組みかえをお願いしたいというわけでございます。

次に補償補てん及び賠償金でございますが、十六万三千円お願い申し上げたいというわけでございますが、これは今度林道ができます中にある立木の補償並びに竹林のたけのこ床でございます。これが三十一万でございます。移転補償料十四万七千円の減額でございますが、あの中に一軒飯田周太郎という方の家があるわけでございますが、これを当初九十五万考えておつたわけでございますが、最終的に八十万三千円であがつたわけでございます。今回補正をお願いした次第でございます。以上でございます。

○ 水産課長（谷貝茂生君） 水産業費につきまして御説明申し上げます。

今回百三十三万三千円の減額補正でございます。おもなものは、漁港の工事が減額されましたのがおもなものでございます。まづ、水産振興費の中の十三節の委託料でございますが、今回のりの養殖試験を実施いたしたいということで、四十万の追加をお願いするものでございます。のりは本県におきまして、八十数億の生産をあげておるわけでございますが、京葉工業地帯の海面の汚染とか、埋め立て等によつて減額されて参つておることから、だんだんのりの養殖が南下して参ります。富浦あたりまでぼつぼつこれを取り入れる様になつて参りまして、採算的な面から見ますと非常に有利でもございますので、館山ものり養殖ができないものかどうかということで、一応試験的に本年はやらしていただきたいということで、これはクレモナの化繊の網を用いまして、その網に種つけしましたものを流していきなりをつけて張りましたものを生育をはかつて、試験をしようということで、市が地元の館山船形組合に委託の形でお願いしまして、技術的な面もございまして、試験所と組合の共同でもつて、実際に当つての指導は試験所からもうという



ことでお願いしようというものでございます。

網は大体二メートルの二〇メートルの網が三十六枚ぐらい張られる予定になっております。普通行なわれておりますのが、百二十枚が一柵として実施されておりますけれども、試験でございまして、約三分の一ぐらいに縮小いたしました、試験をやつてみたいということで網代、材料費、賃金もわずか見込みまして、一応大体予算もお願いできますならば早速準備にかかりまして、来年の三月末までの期間この試験を実施して参りたいという考えてございます。

それから、次の十九節の負担金補助及び交付金、沿岸漁業構造改善対策事業の補助金二十四万でございますが、これは船形漁協の荷さばき所を建設されましたときに、一応市でもつて四百五十万を四十三年、四十四年と二カ年間で補助しようということで、この総事業費は三千百数十万かつておるわけでございますが、県の補助もあります、市として四百五十万を二カ年間で補助しようということで、二百二十五万ずつ予算計上したわけでございますが、年度の終りに県のほうからきました補助金が多少増額されて参りましたので、予算措置もできませんでしたので、市の分を減額して出してございますので、今年度の予算二百二十五万にこの二十四万を追加しておあげたいということでございます。

それから、漁港建設費でございますが、まず十九節の負担金の大幅の減額でございます。百九十八万三千円の負担金の減でございますが、まず最初に船形漁港の修築事業の負担金でございます。これは臨港道路を一八三メートルつくる予定で当初千九百万の事業をもくろんでおりまして、そのうちの市の負担が一・五%というところで、二百三十七万五千円計上しておりましたが、事業として千二百二十万ということになりましたので、市の一・五%の分が百五十二万五千円で八十五万の減という結果になったのでございます。

次に富崎漁港の修築工事の負担金でございますが、これは港内しゅんせつを八、〇〇〇リユーベ予定いたしましたして、当初千五百万円の予定でございましたが、決定されましたのが千百万でございます。一・五%の市の負担分について



五十万円の減ということに相なつたわけですが、六月の補正のときに九万三千円補正をお願いしてございますので、今回四十万七千円の減額をお願いするものでございます。

次の船形漁港の整備工事の負担金でございますが、これは荷さばき所前のしゅんせつ、マイナス三メートルに掘るものでございますが、一応当初八十万の予定が、これだけは今回百十六万八千円に増額されまして、その二分の一市の負担ということで、差し引き十八万四千円の増をお願いするものでございます。

次に富崎漁港の整備工事の負担でございますが、これは当初二百五十万の事業負担であつたわけでございますが、今回六十八万の決定を見ましたので、この二分の一の負担金ということで、九十一万の減額補正を今回お願いいたしました。合計負担金のところで百九十八万三千円の減額補正をお願いするものでございます。

○ 土木課長 (飯田治男君) 八款土木費について御説明申し上げます。一項土木管理費につきましては省かせていただきます。

二項道路橋梁費とございますが、財源内訳の補正でございますまして、当初道路新設改良費の補助金として百三十万計上いたしました、その後額も確定いたしましたので、六目の橋梁新設改良費に百万、次の五項の二目街路事業費に六十万、計百六十万を今回補正いたしたいと思います。

五項都市計画費の補正についてでございますが、これは都市計画事業に那古の都市下水路と城山の整備事業が国の補助の対象になりましたので、今回補正をさせていただきたいと思ひます。那古の下水路総事業費六百万、補助率が三分の一でございますまして、国の補助が二百万、城山公園の整備事業は三百六十万でございますまして、補助率が三分の一、百二十万の補助でございます。補助に伴ひまして、今回補正をお願いするわけでございます。

総務費の減額でございますが、これは事務費の關係で、一応都市下水路、公園と分けなければなりませんので、これ



らを三目の都市下水路費、四目の公園費にそれぞれ補正させていただきました。次の二四ページ需用費までは、先ほど御説明しましたように、都市計画総務費からの補正でございまして、工事請負費四百七十七万二千円の追加でございしますが、これは総事業費六百万の中の工事費でございまして、先に予算化してありましたものの不足額をここに計上いたしました。

公園費でございますが、十一節の需用費の百五十三万八千円の減額でございますが、これは、当初は城山公園の梅とつばきを消耗品として購入いたしまして、直営で植栽する予定でございましたが、今回補助の対象工事の中にこれらも含められますので、これらを減額いたしましたして、工事請負費のほうに補正いたしましたして、十五節の工事請負費二百二十三万九千円は、当初額に不足する額を今回追加お願いするわけでございます。

それから、十三節の委託料二十万円でございますが、これは北条小学校の跡地を公園化するために、本年度と来年度にわたりまして、調査、設計を委託いたしますわけでございますが、そのうち、本年度調査の委託料といたしまして、二十万円計上いたしました。

それから、申し落しましたけれども、七節の賃金九万円の減額、これも先ほど申しましたように、梅、つばきの植栽を工事請負費のほうに持つていきましたので、減額いたしました。以上でございます。

○ 建築課長 (池田春雄君) 住宅管理費のほうを御説明申し上げます。

六十五万二千円の補正をいたしました。このうち、五万二千円というものは、住宅の実態調査というものが八月一日に行なわれまして、そのときの調査が館山の国勢調査の地区ですか、そのうちの四十三地区を対象にして実態調査をしたわけでございます。そのときの報償金、県と国のほうから参りました。修繕料は先ほどの住宅の修繕、屋根の雨漏り、それから屋根のふきかえ、それから壁体の水回わしですか、これらの修繕料でございます。



それから、続いて住宅建設費のほう、住宅の補助単価が上つて参りましたものですから、ここに補正をして、人件費それから備品費、需用費、これが国のほうの費用で何%ときまつております。そのほうに充当するようにおのの増額になつた分を当てはめて補正してございます。二三ページの土木総務費に人件費が組んであつたんですが、その人件費を住宅建設費のほうの人件費にまわすように更正したわけでございます。

それから、今回ライトバンを建築課でお願いしたいと思ひますので、そのガソリン代、その修繕料というものを需用費の中へ、備品購入のほうで六十万、それからリコピー、青写真を焼く機械を購入したいというようなものでございます。

それから、十五節、十三節の設計委託料、この減額は、工事、その設計関係の一部分を委託それからボーリング等で、当初百八十万ばかりのものを百十七万三千円減額して需用費、備品費等に更正いたしました。以上です。

○ 消防本部次長（岩田 実君） 引き続きまして、九款消防費につきまして御説明申し上げます。

二目非常備消防費、これは主として消防団関係でございますが、六十三万六千円の補正をお願いする次第でございます。

八節の報償費で五十七万円でございますが、これは退職報償金でございます。御承知のように、十五年以上勤続いたしました消防団員が退職した場合に、条例に基づきまして、退職報償金を支給するようになっておりますが、本年の四月十四名の方が退職されました、この方に支給すべき退職報償金の不足額五十七万円でございます。なお、この五十七万円につきましては、市と契約しております共済基金のほうからすでに参つておる次第でございます。

それから、十九節の負担金で六万六千円でございますが、御承知のように、消防団員が公務災害をこうむつた場合は、公務災害補償を行なうわけでございますが、現在の経済事情のもとでなかなかこれに合致しないうらみがあるわけでござ



さいまして、これにつきまして、千葉県下の市町村の大半が加盟しております千葉県市町村総合事務組合というのがございまして、この組合が本年の四月一日からこの公務災害見舞金制度というものをつくりまして、公務災害で死亡した場合には八十万円御見舞金を差し上げ、また公務災害があつた場合には、一級から十四級まで等級をつけまして、それぞれ定まつた額を御見舞金として差し上げるといふ制度が発足いたしましたわけでございます。本市もこの組合に加盟しておりますために、この負担金といたしまして、四万八千七百円をお願いする次第でございます。

それから、市と契約しております共済基金でございますが、今回政令が改正されました、このすべての公務災害補償の基礎となります補償基礎額が本年四月一日から上りまして、すべての補償がやれる。有利になつたわけでございますが、これに伴いまして、当初見込みました負担金よりも負担金が増額されました。その増額分一万七千余円を今回追加補正をする次第でございます。よろしくお願いいたします。

○ 教育委員会庶務課長（干場伊右エ門君） 教育費について御説明申し上げます。

一項の教育総務費でございますが、百十五万の追加、この内訳は十節の交際費五万でございます。これは昭和四十八年に千葉県で行なわれる国体の準備関係のための今年度の交際費でございます。委員会の交際費として五万お願いする次第でございます。

次の三目の資料センター費、これで百十万の追加でございますが、これは需用費で八万一千円、備品購入費で百一万九千円、合わせて百十万、これは視聴覚ライブラリーの整備事業としまして、県で三カ所を指定しまして、県南では館山市が該当しまして、国から三十万、県から三十万の補助がございます。市から五十万、合わせまして百十万でございます。

それから、小学校費で百二十四万円の追加でございますが、その内訳は、まず十一節の需用費二万一千円、これは用



務員の被服貸与費でございまして、女が十三人、男が一人合計十四名分の被服費でございまして、それから、十四節の使用料及び賃借料一万円、これは土地借り上げ料、船形小学校の国有地、これは賃貸料の更正がございまして、この値上がり分でございまして、十五節の工事請負費三万円、これは船形小学校のテレホン配線工事費でございまして、ライオンズクラブから三万円寄付があつた。その金額をこれに充てるものでございまして、十八節備品購入費十三万円、これは北条小学校の言語治療学級の器具費でございまして、国からの八万円、それに市から五万円でこの器具を購入するものでございまして。

次は、教育振興費の八万五千元でございまして、十一節需用費一万円、これは北条小学校の交通安全実験研究の關係の印刷費でございまして、これは県から一万円の補助がございまして、次は備品購入費の七万五千元、これは畑小学校オーバーヘッド三万円、これは県から三万円補助がございまして、那古小学校の図書三万円、これはライオンズクラブからの三万円の寄付をこれに充てます。それから、館山小学校の特殊学級の教材費一万五千元、これは国から四万補助があるのでございまして、差額の二万五千元というのは、既定予算をこれに充てる次第でございまして。

次は、学校建設費で九十六万四千元でございまして、工事費としまして二十四万四千元、それから備品購入費で七十二万、九重小学校のプール循環る過装置の購入費七十二万円とその建物二十二万円、それから電気関係二万四千元、この合計額が九十六万四千元でございまして。

次は、中学校費で二百十一万七千円の追加でございまして、十一節の需用費一万二千元、これはやはり用務員の被服貸与関係女五人、男が二人七名分の被服費でございまして、次は土地使用料の十万八千元でございまして、一中の国有地の借り上げ料であります、値上げについては、昭和二十八年に保留になっていました、今回近隣評価額の調査によつて増額されたものでございまして、次は二八ページの工事請負費四十七万円、これは二中の校内放送の配線工事費でございまして。



ございますが、校内放送の配線が古くなりまして、故障が起こりがちでございます。今回全部この配線をかえたいとす  
るものでございます。それから十八節の備品購入費十九万、これは房南中学校の消火器購入費一万四千五百円、これは  
房南中学校を新築し、古いものを使つたんでございますが、やはり基準からいくと消火器が四本不足ということで、そ  
の分の購入費でございます。それから書房中学校の水泳プールの滅菌器、これが使用不能になつたので、新しく購入す  
るものでございます。それから次が二中武道館の畳の購入費十二万でございますが、今まで古い畳が五十畳あつたので  
ございますが、今度の新しい武道館は約百畳ということでございますので、その五十枚分でございます。

次は、教育振興費の追加十九万一千円、これは備品購入費で校用器具費として十一万五千円、一中のオーバーベツト  
十万円、これはライオンズクラブからの寄付十万円をこれに充てるものでございます。それから房南中学校の特殊学級  
の教材関係一万五千円でございますが、これは国から四万補助がございますが、二万五千円を既定予算を充てるもので  
ございます。それから図書購入費として、七万六千円でございますが、これは一中の図書購入費でございます。

次は、学校建設費として、百十四万六千円でございますが、これは西岬中学校のプールの循環ろ過装置購入費八  
十五万、それからその建物二十二万、電気関係七万六千円の金額でございます。

次は、幼稚園費として、二万三千円の追加でございますが、これは需用費の中に被服費三千円とございますが、  
用務員の被服貸与関係女二人分でございます。あと旅費で四千円、需用費で一万六千円、合計二万でございますが、こ  
れは北条幼稚園の交通安全指導研究関係の費用でございます。県からの補助二万円をこれに充てるものでございます。  
保健体育費の四十五万でございますが、これは旅費、需用費、役務費それぞれ国体準備関係のものでございます。以  
上でございます。



す。

今回の補正でございますが、市民センター内にあります変電施設の高圧対圧試験を実施するように、今回通産省の通産局から指示がございまして、その試験を業者に見積らせましたところ、二万五千円で一切検査を終了するというところでございますので、ここに計上して検査を実施したいと考えております。なお、従来市民センターの進入路の道路が暗いということで、外灯工事を一応予定しておりましたところ、本年の五月に東京電力から螢光灯の器具の寄贈を受けまして、進入路の各所に一灯敷設いたしました。引き続きまして、私ども計画しておりました水銀灯による外灯工事をこれによつて一応取りやめまして、その螢光灯の寄贈を受けました螢光灯と同様の螢光灯をさらに一本センターの進入路に増設いたしましたので、二灯で外灯工事を代がえしよう。こういうことで、ここにその費用が十四万四千円ほど余剰を生じましたので、これを財源にいたしまして、今回の変圧試験の手数料と市民センター内の造園の整備、植木の手入れ等を見まして、十一万九千円をお願いしようというものでございます。

○ 財政課長 (長谷川広治君) 以上で歳出の説明を終わりますが、歳出総額八百十六万九千円の追加額ということになります。

引き続きまして、九ページからの歳入の説明に移らしていただきますが、歳入のうち、九款の国の支出金、十款県の支出金、十二款の寄付金につきましては、それぞれ説明を申し上げました歳出に対応いたします額が大部分でございまして、説明を省略いたさしていただきまして、説明欄により御了承をいただきたいと思ひます。したがひまして、一三ページの歳入から御説明を申し上げます。

十四款に今回繰り越し金で千七百万九千円を計上いたしてございます。当初予算繰り越し金は六百万円を計上いたしたわけでございますが、四十三年度の決算数字から申し上げますと、二千九百六十万ばかり繰り越し金が出ましたので、



今回財源の関係から千七百万九千円だけを計上いたしました。約六百六十万を保有財源として保管をいたしてございます。

十五款の諸収入で今回六十八万一千円の追加額でございます。そのうち、消防関係の五十七万につきましては、先ほどの共済関係の退職金の収入でございます。最後の行政財産の一時使用料として七万六千円計上してございますが、これは本年度夏休み期間中、二中を一時使用させたための一時使用料として収入をされる数字でございます。

続きまして、十六の市債におきまして、今回八百五十万の減額でございます。これは当初に申し上げましたとおり、歳出におきまして、それぞれ事業量の減によります総工費の減がございましたが、先ほど申しました市債の仕組みからいたしまして、今回それぞれ起債の額がおおよそ内定をいたしましたので、それを更正をいたしましたものでございます。

小規模草地改良事業は当初一千万を予定いたしましたでしたが、今回五百五十万減額いたしましたので、起債予定額を四百五十万といたしたいと思います。

次の漁港整備負担事業、当初予算に三百万起債を計上をいたしましたわけでございますが、先ほどの説明でも御承知のとおり、百九十八万三千円ばかり事業量が減額をいたしましたわけでございますが、したがいまして、起債のワクとしては、百万ばかりまだ許可される見通しがあるわけでございますが、市の場合では二百万以下の起債は許可しない。こういう関係から今回漁港整備負担金債につきましては、三百万円全額起債を減額し、他の財源に振り向けるというようなことで計上をして御提案をしたわけでございます。以上、歳入簡単でございますが、説明を終わりますが、歳入も八百十六万九千円ということに相なるものでございます。よろしくお願いいたします。

○議長（西村真次君） 議案第六十一号、議案第六十二号、議案第六十三号を一括議題といたします。朗読省略直ちに説明を求めます。



議案第六十一号 昭和四十四年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第一号）

議案第六十二号 昭和四十四年度館山市休養施設特別会計補正予算（第一号）

議案第六十三号 昭和四十四年度館山市館山ユース・ホステル特別会計補正予算（第一号）

○ 保健衛生課長補佐 （森 信次君） 議案第六十一号、昭和四十四年度館山市国民健康保険特別会計補正予算第一号について御説明申し上げます。

この補正予算につきましては、歳入歳出の総額に歳入歳出それぞれ四十二万五千円を追加いたしまして、歳入歳出それぞれ三億千三百六十六万七千円とするものでございます。

以下、明細につきましては、特五ページをお開きいただきたいと思います。

まず、事業勘定から申し上げますと、総務費といたしまして三十八万二千元、これは備品購入費でございまして、電子リコピー二十六万円、複写機一台十二万二千元の購入費でございます。最近非常に書記的業務が多くなつてきておりますので、この機械を購入いたしまして、事務の合理化、能率化をはかるうとするものでございます。さらに複写機でございしますが、現在庁内にもございますけれども、すでに非常に古くなつておりまして、遠からず使用できなくなるという可能性もありますのでこの際國の補助をもつて購入して供用したいと思うわけでございます。財源につきましては、國庫の支出金十二万二千元、これは補助率一〇〇%でございます。その他二十六万円を一般財源から充当するわけでございます。

保健施設費でございしますが、四万三千元、これは十八節の備品購入費といたしまして七千元、これは四月に採用いた



しました保健婦の冬服一着分六千九百円で購入しようというものでございます。これは一〇〇%補助の県の交付金となるわけでございます。十九節負担金補助及び交付金三万六千円でございますが、同じく採用保健婦の奨学資金の補助金でございます。月額三千円、年額三万六千円となるわけでございます。以上、歳出の合計四十二万五千円、これに対応する歳入といたしまして、国庫支出金十二万二千円でございます。これは先ほど御説明申し上げました事務合理化関係の国庫補助金でございます。

それから、県支出金といたしまして七千円、これも御説明のとおり保健施設活動補助金としての保健婦の六千九百円でございます。

繰り越し金として二十九万六千円、これは前年度からの繰り越し金でございます。以上、歳入歳出ともに四十二万五千円の補正でございます。以上でございます。

○ 商工観光課長 (山田俊康君) 続きまして、議案第六十二号四十四年度館山市休養施設特別会計補正予算第一号について御説明申し上げます。

今回お願いいたしますのは、歳入歳出の総額にそれぞれ百二十五万三千円を追加いたしましたして、歳入歳出それぞれ三千四百四十二万七千円としたいというわけでございます。特の一一ページをお開きいただきたいと思ひます。

歳出で工事請負費に七十七万五千円、工作物等移転工事請負費、それから二十五節積み立て金で四十七万八千円、休養施設近代化基金積み立て金、この二つでございます。当初予算のときに鳩山荘の前の道路、県道南安房公園線の道路拡幅に合わせて、道路あるいは石垣等の補償によります工事請負費等を当初予算でお願いしたわけでございますが、その後道路が多少鳩山荘寄りに変更になりました、当初予算のときにお願ひしましたものよりもちよつと西側によりまして、坪数で約三十七坪弱ほどふえたわけでございます。路線の変更によりましてふえまして、その買収代金が土地売り



払い代金として四十七万八千円ほど、それからそれに伴いまして、垣根とか石垣とかいうようなもの、あるいは灌木等の移転等も含めまして、工作物の移転補償料七十七万五千円が県から交付されますので、それを今回不動産売り払い収入四十七万八千円、これが三十七坪弱、平方メートルでいいますと、一二一・八一平方メートルでございます。

この売り払い代金につきましては、休養施設の近代化基金に積み立てる。そうして移転補償料につきましては、この補償料を財源にそれぞれの工事を進めたいということをお願いした次第でございます。以上で議案第六十二号の説明を終わります。

続いて議案第六十三号、館山ユース・ホステル特別会計の補正予算一号について御説明申し上げます。

今回お願いいたしますのは、それぞれ歳入歳出四十五万円追加をいたしまして、歳入歳出総額をそれぞれ六百一十一万六千円をお願いしたい。特一七ページでございます。

経費のうち、賃金で三十三万六千円臨時職員の賃金でお願いしてございます。これは当初予算でお願いいたしましたときには、一般職員で今まで二人で職員がやつておりましたものを三人にふやしまして、それでやつていきたいというところをお願いしたわけでございますが、勤務体制が非常に窮屈になりまして、一人の増員がまだはかれないでおりましたために、臨時職員の賃金が来年の三月までの間職員が雇えない場合にはこの程度の臨時職員賃金が不足するというところで今回これをお願いした次第でございます。なお、備品購入費十一万四千円業務用器具費ということでお願いしましたものは、現在使っております消火器の不足、あるいはユース・ホステルの中で使っておりますスピーカー、あるいは暖房器等の不足を補うために今回お願いしたものでございます。以上、非常に簡単でございますが、ユース・ホステル会計の説明を終わります。

○ 議長 (西村真次君) 以上で説明が終了しました。



延 会

○議長 (西村真次君) 本日の会議はこれにて延会といたします。次会は九月二十九日午前十時開会といたします。その議事は本日に引き続き議案の審議、追加議案の審議といたします。どうも長時間ごろうさまでございました。

午後四時二十八分 延 会

○本日の会議に付した事件

- 一、会議録署名員の指名
- 一、会期の決定
- 一、陳情書
- 一、行政一般質問
- 一、報告第三号、議案第五十二号乃至議案第六十三号(内容説明)



